

岐大通 2011



2011 J.League Division2 第7節 **ギラヴァンツ北九州**戦
10/26(水) 19:00~ @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

『いいサッカー』って、何だろう？ 湘南7-岐阜【第3節】

あんなスコアだが、それでも失点&点差のワーストを更新しなかったことをよしとしよう。そう無理やり思い込ませなきゃどうしようもない結果と内容。なんで、試合開始直後、前半3分にあんな失点できるだろう？先制されるとキツイから、「入り方に気をつける」んじゃないの？いつも、おなじことの繰り返し。毎回毎回毎回毎回……。キックオフからやたらとラインを上げて、たった一本のパスで相手FWとCBの数的同数とか不利な状態を作り出す意図がわからない。確かに、点を多く取った方が勝つんだよ、サッカーは。でも、その一点を取るのが難しく、だからみんな戦術とかを考える。そういうゲームなんだよ、ホントはね。だけど、こんな試合を見ると「何にも考えなくても勝てるんだなあ〜。」と思ってしまうね。アウェイ連戦中二日。ただでさえ、バス移動とか試合後のケアとかで負担を強いられる選手のコンディションを考えたら、取るべき戦術があるんじゃないの？最下位でアウェイ。ハードなスケジュール。だったら、前半引いて守って、後半勝負で問題ない。彼等の状況やコンディションを考慮して、少しでもかつ確率の高い戦術を指示する。木村監督は、広島ユース出身のJ1選手とかから尊敬されているらしく、勝敗にこだわらないユース・レベルならその手腕が生かされるのかもしれない。だが、プロ・リーグの勝負師、指揮官としてはどうなんだろう？

木村監督の目指すサッカーは「個性を活かした攻撃的なサッカー」。それは確かに夢のあるすばらしいサッカーで、今季の開幕直後からいろんな解説者やライター、さらには他サポにまで「いいサッカー」と言われている。この試合も、またスカパー！の解説者に「岐阜は、いいサッカーしている」と誉められていた。ただ、あまりの内容と失点経過に、途中から困ってたけれど。しかも、試合後には相手の監督からも「岐阜の方が内容はよかった」と言われる始末。7点も取っておきながら(笑)。今の岐阜のやってることって、『いいサッカー』の前に『相手にとって』って付けた方がいいんじゃないの？そりゃあ、敵さんにとっては楽しいと思うよ。個人能力に劣るチームが、己れを省みずオープンに挑んでくれるんだもの。当然、スペースも時間も使い放題。自分たちがミスせず、ちょっとだけガマンすれば、岐阜が勝手にミスしてチャンスをくれるってワケだ。相手の監督がいくら内容のある自分たちの志向するサッカーをしようとしても、その前に勝手にチャンスが転がり込んでくるんだもの。そりゃあ、組み立ても戦術も使う必要もないよね。

松永さんや倉田さんのサッカーは、「小学生みたい」とか「引きこもり」とか言われ、少なくとも今季のように多方面から絶賛される内容ではなかった。でも、それは当然で、二人ともその時の戦力ではそうするしか勝機が見出せないからそうただけで、それでもそこそこの結果を出した。しかも、実はそういうサッカーを攻略するのは案外難しく、やりにくかったからこそ敵から誉められることがなかった。そういうことだと思う。木村監督のやりたい『いいサッカー』。確かに、それは志の高いサッカーかもしれない。でも、それは今のメンバーではこなしきれない(こなせるんだしたら、この時期こんな位置にいるワケがない)。だったら、現状を把握して修正しなきゃ話にならない。今いる戦力で勝利をつかみ取ることこそが最優先。でなきゃ、スポンサーも観客も集まらないでしょう？6位に入って、来年昇格。それは、ボクらの知らないところで決められた話。で、木村さんと呼んできて、木村さんのやりたいサッカーを遂行できる選手を揃えるのは、誰の仕事？「金がない」とか「選手が悪い」とか、どの口が言うんだ？世の中広しといえども、Jリーグの監督を名乗れるのは、たったの38人。そして、監督をやるための資格「S級」を持っている人の数は300人くらいとか。50才を越えた木村さんには今くらいの年棒が必要かもしれないけれど、30才代の独身ならその半分でOKという人材はいるような気がするんだけど？試合後のコメントとかは、前後の脈絡や雰囲気、それに編集でどうとでも変わるから決して鵜呑みにするつもりはないけれど、この試合後のインタビュー、そして先日の某紙のインタビューでの木村さんの回答は、松永さんや倉田さんのそれとほぼ同じ。

「変わるの自分。他人は変えられない。まずは、自分のできることをやっつけていこう」。そんな話を先日聞いたが、変わる気も変えるつもりもない人達には、意見をぶつけなきゃ伝わらないよね。少なくとも、今のままじゃ来季のシーズン・チケットを買う勇気が持てない。フロントは、今季のシーチケ・ホルダーに「来季も継続して購入する」つもりがあるかどうか確認した方がいいかもしれないよ？(ぐん、)

続きます。

today's guest

ギラヴァンツ北九州

2010 J2 19位

J2通算対戦成績 : 2勝 0分 1敗

2011成績

第3節 11/10/01 北九州 3-2岐阜

2010成績

第0節 10/04/29 北九州 0-1岐阜

第2節 10/09/12 岐阜 1-0北九州

2011J2 順位表 第3節 変則

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から視点)

1 FC東京	64p	+39	54	15	A	H
2 鳥栖	57p	+29	52	23	A	
3 徳島	55p	+16	45	29	H	A
4 札幌	53p	+9	36	27	H	A
5 千葉	51p	+9	42	33	A	H
6 栃木	47p	+6	33	27	H	A
7 東京V	45p	+20	57	37	H	A
8 湘南	45p	+5	40	35	H	A
9 北九州	45p	-5	32	37	A	
10 熊本	44p	-6	28	34	A	H
11 草津	42p	-7	39	46	A	
12 大分	41p	-2	33	35	H	
13 京都	40p	-1	39	40	H	
14 愛媛	38p	-9	33	42	A	H
15 岡山	35p	-18	35	53	H	
16 富山	34p	-16	28	44	A	
17 水戸	32p	-9	32	41	H	A
18 鳥取	31p	-7	30	37	A	H
19 横浜FC	31p	-14	32	46	A	H
20 岐阜	19p	-39	29	68	---	---

次回 HomeGame

第3節 サガン鳥栖戦

10/30(日) 19:00
@岐阜メモリアル
センター長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

FC岐阜大好き通信(岐大通)
10/26号
編集発行:『岐大通』製作委員会
今号の製作担当: ささたく & 吉田 耕造

編集子より
ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンも「全ホームゲーム」での
発行を目標にしますので、よろしくお
願い致します。

Living in Woods

本庄工業株式会社

http://www.hon.jp-woodream.com/

(湘南戦の続きです)

惨敗だった。いや、惨敗よりも更に酷い。完全に虐殺された、個人的には屈辱的とも言える試合だった。TVでの観戦だった僕でもそう思ったのだから、(これまでの経験ではモニタ越しの試合は良くも悪くもマイルドに見えるので)現地に参戦した岐阜サポにとっては、本当に酷い、精神修行の様な試合に映ったことだろう。

確かに、2週間で3試合、しかも中2日でのアウェイ2連戦では、選手たちのコンディションも相当厳しいものだったと思う。しかし、向こうだって連戦(しかも前節は北九州でのアウェイ)なのだし、こういう悪いコンディションの時こそ、選手個人のテクニックよりも、「勝ちたい」という執念や、最後まで走りきる気持ち、あるいは一つ一つのプレーを大事にする集中力こそが要求されるのだと、僕は思っている。

しかし...前半3分に縦パス1本で早々に失点って何なのさ(溜息)。僕の記憶が確かならば、前節の草津戦でも「前半の入りが悪くなかった」と、選手も監督も試合後のコメントで言ってなかっただろうか?んで、そんな判でついたような同じコメント、今年は何回聞けばいいんだろう?どうして、集中して試合に臨めていないんだろう?しかも、まだ試合開始3分なのに、縦パス1本で裏をとられた追っかけこで、湘南FWは2人ともゴール前まで走ってきていて、ウチのDFは1人しか戻って来れてないのは何故なんだろう?実際、坂本は何とかケアできていたが、どフリーで走っていた田原にボールが渡り、決められてしまった。そんなに走れないコンディションの選手たちならば、例え中2日のアウェイ連戦で岐阜に戻ってきていないとしても、スタメンに選んじゃダメだろ...と、いきなり憂うつな展開に(溜息)。

湘南の選手たちもコンディションは良くなかったと見え、岐阜も湘南もシンプルに縦パス勝負で仕掛けていたと思うのだが...決定的に違っていたのは、ウチは中盤でアジエルをフリーにさせていて、湘南は橋本に素早く厳しく(ほぼ常に2人で、時には3人で)チェックしていたことではないだろうか。どう考えたって、湘南の中心選手はアジエルでしょ?それをフリーにして好きにボールを供給させてれば、そりゃピンチになって当然だって、僕ら素人でもわかるんだけど...誰かマンツーマンで貼り付いたって良いとさえ、僕は思ったぐらいだった。逆に、橋本が狙われてるのも見え見えだったんだから、もっとボールを貰いに行くなり、橋本を囿に使う動きをするなりしないとダメなのだけれども...走れていないので、そういったフォローが全然できていなかった。

2失点目は流れから、3失点目はセットプレーからヘディングで決められて失点。結果に「たれば」は言いたくないが、これも、もっと厳しく競り合っていたら...と思わせるようなシーンと僕の目には映った(溜息)。一方の岐阜は、(いつもの事ながら)運動量が足りないし運動性に欠けるしボールのコントロールも悪いしで、ほとんど見せ場を作れずに前半終了。

前半で3点も取ったのだし、疲労も残っているだろうから、後半は流して試合を終わらせてくるのかなと思ったのだが...湘南はまだ昇格の望みが完全には消えていなかったんですね(苦笑)、今後の得失点差のことを考えて、全く容赦ない攻撃。一方の岐阜は、これも前半が酷かったんで、反省して修正してくるだろうなと思ったのだが...またしても後半開始早々、なんと後半1分に、自陣バイタルエリアでの不用意なバックパスをアジエルに搔っさらわれて4失点目って何なのさ...(溜息)。そしてその後、そりゃ確かに大量得点差がついてしまった以上、まずは何とか1点をとって攻撃にシフトするのは分かるけれど...完全に守備を放棄したように、あるいは選手間の意思疎通が完全にチグハグに見えてしまう動きになってしまったように見えた。ウチのCB2人が、セットプレーでもないのに敵陣のゴール前に攻め込んでいたシーンがあったように思うのだけれど、ウチの選手がケガをして、湘南が外に出してくれた訳でもないのに、岐阜のスローインが、どフリーの湘南選手の足

元に収まったシーンがあったように思うのだけれど...アレは僕の目の錯覚なんだろうか...(溜息)。そして、岐阜のフォーメーションは確か4バックだったと記憶しているのだけれど、今節は2バックと言ってもいいような...(溜息)。次々と失点する状況で、ボランチの三田と交替で入った李漢宰も、足裏を見せて相手選手の足首にタックルしてしまい、一発レッドで退場し、戦況は更に悪化。最後の最後に押谷が意地の1発を決めて無得点だけは阻止したものの、1-7で敗戦。2007年の広島戦以来となるスコアだった。

この大差のスコアだけでも十分に屈辱的なのに、湘南の反町監督には「緩い試合をしてしまった。動きは岐阜の方が良かった」と言われ、ハットトリックを決められた田原にも「反省する部分が多かった」と言われてしまう始末。なんという屈辱。それこそクラブは、二度とこんな試合をしないためにも、記念碑(?)を建てても良いレベルとさえ思ってしまった。

さて、今節の相手は、今月で2連敗してしまっているギラヴァンツ北九州。3連敗は阻止しなくてはならないが、累積警告でCB田中、退場したMF李漢宰の2名が出場停止であり、非常に厳しい状況だ。けれど、あれだけ酷い試合をしてしまった次の試合をどうやって立て直すのか、この最下位独走中のチーム状況について、チーム全体が本当に危機感をもって臨めているのか、試される試合になるのではないだろうか。奮起を期待したい。(ささたく)

ちょっと雑学(トリビアという表現はあまり好きじゃないので)。浅学につきぼくはこの試合で知ったのだけれど、サッカーでは大差で負けた場合のスコアに『愛称』があるんだって(いわゆる「ネット・スラング」だと思っただけで本気にしないでください)。0-6だと『無慈悲スコア』で、0-7だと『炭鉱スコア』。炭鉱の由来は、「負けたチーム(たしか某国代表)の選手が、あまりの負け方に懲罰で“炭鉱送り”にされないだろうか...」と各所から心配されたことから、だそう。

まあ、この試合では最後の最後に押谷が1点入れてくれて『炭鉱スコア』は回避出来たのだけれど、それで「あ~よかった、1-7の負けなら3年前に経験してるし」なんて安堵するような状況では、もちろんない。当たり前だ。それでも、かつて北京オリンピックで代表選手を率いて戦った敵将に記者会見で「岐阜の方がよかったんじゃないか」というようなゲーム展開」と言われ、ぼくは未確認だけれどテレビの解説者も放送中には「岐阜はいいサッカーをしている」と話していたらしい。

これを“屈辱”と捉えるのなら話は早い。でも、もしかしたらぼくはこれまでサッカーの試合を多く(100試合以上)生観戦しているクセに「『いいサッカー』の定義を間違えて憶えてしまったのではないだろうか...?」という不安を払拭することが出来ない。だって、ぼくよりは間違いなくサッカーに関しては専門的な方々が、そう言ってるんだもん。

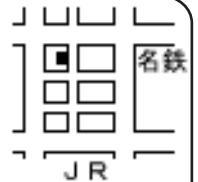
よく言われる「“内容”と“結果”のどちらが欲しいか」の二者択一に対して、ぼくは『“内容”と“結果”の両方』だと断言していたのだけれど、今後は考え方を考える必要があるかもしれない、と思い始めている。この湘南戦でのFC岐阜の戦い方が、サッカー専門家をして「いいサッカー」であるなら、そんな“内容”なら、ぼくは要らない。

(吉田铸造)

「いらっしやいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休：日曜日(今日は営業しています)



勝つ時は『長良川劇場』。 岐阜 4-3 横浜 FC【第3節】

またもや、アディショナル・タイムのゴールでサヨナラ勝ち！
まったく、どうしてこうも劇的な勝ち方ばかりなのか？もしかすると、選手たちは「たまにしか勝てなくてゴメンナサイ。でも、その分勝つときはドラマティックな演出しますよ！」とか考えているのではなからうか（苦笑）。そんな気にもさせられる勝ち方で、7月の京都戦以来、久々に長良川で凱歌が上がった。雨のシャワーも心地よく感じられたし、その雨の中観戦に訪れた5千人余のお客さんも勝利に酔いしれてもらえたのではないだろうか？その中から、一人でも多くリピーターになっていただくことを期待したい。

両チーム逢わせて7得点。しかも、アディショナル・タイムを含めて残り15分の間に5点が入るというシーズンゲーム。そんな試合を制することができた要因は、やはり先取点。とはいえ、試合開始直後にはいくつもの危うい場面が訪れた。横浜の2トップのシュートミス、連携ミスがなかったらどうなっていたか……。下手をしたら、前半開始早々に勝敗の趨勢が決まっていたかもしれなかった。もっとも、そういう場面を決めきれないから、横浜も勝ちきれないのだろう。

この試合は、双方のサポーターともダンマクを掲げたが、その意図するところは全く正反対。しかも、横浜は応援拒否。もちろん、勝敗の行方は応援の人数の多寡や声援の大小で決まるものではないが、だからこそ、逆に負けたくなかった。「オレたちは諦めない。最後まで、共に戦う！」という思いを伝えたかったし、いつもの一時間前ミーティングでその気持ちを伝えたコール・リーダーの檄に胸が熱くなった。残りゲームもいよいよ一桁。これからも厳しい試合が続くと思うけど、とにかく気持ちは「このままじゃ終われねえぞ！」だ。最後まで諦めず戦い抜こう！でも、厳しい意見とやらは、常に発信していくけどネ（笑）

（ぐん、）

せっかくアウェイで上位の栃木SCに勝利して、さあここから連勝...という勢いを全く見せることがない（苦笑）今季のFC岐阜。ギラヴァンツ北九州との10/11リーグ戦、10/9天皇杯2回戦を立て続けに連敗し、今節の横浜FC戦はどうなる事か...

結論から先に言えば、試合終了後、僕の周りのサポータたちの意見は皆、「もっと楽に勝てよ！（苦笑）」とか「なんか今年は、（負けが多い代わりに）勝つ時は劇的な演出しないと気が済まないのかなあ（笑）」とか、あるいは「これだけ点が入って（スコアは4-3）劇的な試合だったから、初観戦のお客さんは満足できたかも（笑）」とか...。まあ、最終的には勝利を掴んだ試合だったから、みんな心に余裕をもって言えた意見なのは間違いない（苦笑）。

振り返ってみると、ホントに劇的な試合だった。前半10分に西川のポストプレーでこぼれたボールを振り抜いた嶋田のゴールで幸先良く先制点をあげてスタジアムは盛り上がるが、前半28分にミドルレンジから見事なドライブシュートを撃たれて同点になってしまい、そのまま前半終了。後半は30分まで得点が入らないが、やっと後半32分に嶋田の放ったシュートが敵DFに当たってオウンゴールで突き放す。しかし今度は逆に後半35分、38分と立て続けにゴールを許し、横浜FCが逆転。しかし後半41分に染矢のPKで追いつくと、ロスタイムに西川の逆転弾で劇的な勝利！...と、得点部分だけ書き出してみても劇的な展開だなあと思うのだけど、実際にはそれだけじゃなかったし（苦笑）。

後半41分の染矢のPKは、相手GK関に完全にコースを読まれて防がれ、スタジアム中で悲鳴が上がったけれど、蹴る前に相手選手がエリアに入ったとの判断でやり直し。2回目は冷静に決めてくれたからよかったものの、もしもアレを外したらと思うと...まあ、勝ったから笑って言えるんだけど（苦笑）。

忘れちゃいけないのは初先発の阪本。前半はあまり動きが良くないかな...とも思ったが、後半になると、相手DFの裏に抜ける動きがハマるようになり、何度も決定機を演出してスタジアムを沸かせてくれた。んで、ゴールネットを2回揺らしてくれたんだけどなあ...残念なことに、2回ともオフサイドの判定。でも、現地でもはっきり見えてたし、録画で確認しても（更に言うならば解説者も言っていたけれど）、後半23分の、西川の放ったシュートをGKが弾き、そのボールを押し込んだアレは、アレはいくらなんでもオフサイドじゃないでしょおお？決めた阪本はもちろんのこと、選手もスタジアム全体も、アレはゴールだって思って、スタジアムDJだって「ゴォーール！！」って叫んだんですよ？オフサイドの笛が鳴った時、ゴールと信じた何人ものサポが歓喜の雄叫びを上げかけて、崩れ落ちたのを僕は見た...まあ、これも勝ったから笑って言えるんだけど（苦笑）。でも、阪本は他にもチャンスが巡ってきてたし、得点の匂いがプンプンしてたから、ホント点を取らせてあげたかったよなあ...洗一との交替は、あれだけ走ってたから仕方ないとも思うのだけれど、最後まで見ていた雰囲気だった。交代時の拍手も、とても多かった。

しかし、勝ったとはいえ、3点も取られてしまったんだから、特にDF陣は反省して欲しい。中盤に空いたスペースを埋めることが出来ずに自由にボールを持たせたり、DFラインの裏を狙われて決定的なピンチを招いたり、（横浜FC側もそうだったから）「ガードなしの殴り合い」の様相だった...まあ、これもまた勝ったから笑って言えるんだけど（苦笑）。

プロスポーツは興業なのだから、これだけ劇的な展開で、これだけたくさん点が入って、“日本サッカー界の至宝”キングカズのプレーが生で見れて、“魔術師”フランサも見れて、それで逆転勝ちしたんだからエンターテイメントとしては合格点かな、とも思う。横浜FCの逆転弾を決めたのがカイオじゃなくてカズだったら、さらに良かったかも（笑）。でも、もしもそうだったら、ウチの選手たちがカズゴールの雰囲気飲まれちゃって逆転できなかったかもなあ...まあ、くどいけど勝ったから笑って言えるんだけど（苦笑）。

やっぱり、得点が入るとスタジアムは盛り上がるし、それが勝ち試合なら尚更だ。実際、スタジアムが一体となって声援を送っている瞬間を、僕は久しぶりに感じる事が出来た。とはいえ、こんな劇的な展開を毎回続けられてしまうと、喜怒哀楽が激しくてかなり疲れてしまうので、今度はもう少し、楽な勝ち方をしてください、よろしく願います（笑）。（ささたく）

そろそろ“劇的”でない勝ち方は出来ないモノなのでしょ。もっとも、この試合に関してはそんな希望を持ちたい試合、本当に「勝ってよかった」な試合だったかもしれない。

前半終了間際に到着して、その時は1-1だったのだけど、後半途中からの出入りの激しさってば、いったい（苦笑）。もっとも、それはキレキレ阪本の2ゴールを無にしてくれたバックスタンド側副審さんのおかげだからしょうがない部分もある（おそらく彼はしばらく旗を挙げさせてもらえないだろうな...）のだけど、ホントに無念そうに引き上げる阪本に寄せられるメイン側からの大きな拍手が、彼の活躍に対する評価の顕れだった。

染矢のやり直しPKといい、最後の優大のゴールといい、久しぶりに大きく盛り上がった長良川だったけど、それには横浜FCの選手たちによる「アシスト効果」も大きかったことは忘れちゃいけないかな。バイタルエリアがあんだだけ“いらっしやい”だったら、そりゃブッチギリ最下位の岐阜だってなんとか出来ますって（苦笑）。とにかく、久しぶりに大勢の観客（当社比）が入った試合で勝つことが出来て、本当によかった。（吉田铸造）

『連勝』は無理な希望なのかな...。 草津4-2岐阜【第6節】

上州の風は寒かった.....。まだまだ、名物の「空っ風」までいかないが、群馬県は岐阜よりずっと北。そんな感じの肌寒さ。まさか、その気温に合わせたワケでもなかるうが、試合内容も実にお寒かった。

開始直後からピンチを迎えるのは前節と同じ。でも、残念ながら相手は横浜じゃなかった。なんていうんだろう。こちらは右も左も、そして真ん中もスッカスカのフリーウェイ。そりゃあ、4点も取られるよ。そういえば、勝った前節だって3点取られてるんだもんね。最終ラインを高くしてコンパクトに戦うという戦術はわかるけど、両サイドがのべつくまなしに、いっぺんに上がる必要もないし、サイドが上がったらそのスペースは誰かが埋める。そういう約束事があるって、初めてSBの攻撃参加が活きるんだよね？スコアだけ見れば2-4でそれなりの結果に思えなくもないけど、判で押したような前半の失点、得点直後の失点とやってはいけないことばかりの繰り返し。それは試合後のコメントも同じ。流れを変える選手起用ばかりか、流れを活かすための起用もない。なんとというか、自ら勝利を遠ざけているような気さえする。平日のナイトゲーム、アウェイの連戦と、キツイスケジュールはわかるが、それでも現状を抜け出すためには勝利しかない。「勝利のために必要なこと」それを全員がしっかり意識付けしてほしいんですが.....。

東名の集中工事により、帰りの中央道はトラックで大渋滞。恐るべき鬼プレスに、試合以外でもドゥプリ疲れての帰還となってしまいました。(ぐん、)

【セカンド】『岐阜全社』はベスト8。 そして今年の本公式戦を終了しました

今月の15~19日にかけて、大垣市・養老町・飛騨市を会場に「第47回全国社会人サッカー選手権大会」が行われました。かつては日本リーグ(JSL)への昇格を決める大会でしたが、現在では国体のリハーサル大会と11~12月に行われる「全国地域サッカーリーグ決勝大会」への出場権をかけるカップ戦として定着しています。我々がFC岐阜セカンド(以下「セカンド」)は春に行われた岐阜県予選を勝ち上がり、『開催県代表』として、千葉大会以来2年ぶりの出場を果たしました。

結果は、緒戦のMATSUE CITY FC(中国・島根)戦を6-3の叩き合いで制し、2回戦ではヴォルカ鹿児島(九州・鹿児島)を延長戦の末に1-0で下してベスト8に進出。しかし、準々決勝では元J選手を数多く擁し、大会準優勝となるSC相模原(関東・神奈川)を相手に厳しい試合展開に。一時はPKで追いつくなど善戦したのですが、終了間際の失点で惜しくも1-2で敗退。5年前の秋田大会でトップチームが記録した“ベスト8”の更新は残念ながらありませんでした。

これでセカンドは今シーズンの全公式戦が終了しました。今年から昇格した東海リーグ1部では5勝4分5敗で5位(8チーム)で残留。天皇杯では初めて本大会で勝利してJ1チームに挑戦することも出来ました。成果と課題の両方が得られた1年だったと言えるでしょう。

来年はいよいよ『ぎふ清流国体』。現在の岐阜県社会人の頂点にいるセカンドからも多くの選手が選抜されることと思います。大会そのものの成功と合わせて、彼らの活躍に期待しましょう。1年間、お疲れ様でした。(吉田 鑄造)

【ユース】Jユースカップで 昨年の覇者に惜敗

我々がFC岐阜ユースU-18(以下岐阜ユース)は今年最後の公式戦であるJユース杯の予選に参戦しています。今年で3回目の参加であるJユースカップ。初年度は0勝0分6敗の勝ち点0得失点差-68、全ての試合で二桁失点で、もうボロボロ状態。2年目の昨年は随所に良い所がありました。それでも勝ち点0。3年目の今年。ユースの選手達の意気込みは聞いていましたが、直前の試合でふがない戦いを見ていた事も有って、「試合になってくれれば.....」と言うのが正直な気持ちでした(大変申し訳ありませんでした)。

そして迎えた10月22日の初戦、相手は昨年のJユースカップの覇者横浜F・マリノスユース(以下マリノスユース)。関東プリンスリーグ1部VS Vリーグ3部の戦いとなったこの試合について、私は岐阜ユースはマリノスユースの猛攻を堅く守って1点を狙う戦いを予想していましたが、さにあらず。試合開始から岐阜ユースがかなりの確率でボールを保持。得点機もマリノスユースより多い展開にビックリ! 互角以上の戦いを進める姿に約200人の観客のテンションは上がります。そして前半30分に流れからの綺麗な形で岐阜ユースが先制! もう観客席は大騒ぎ!! 私も得点者の確認を忘れるくらいに歓喜乱舞していました(自爆)。その後セットプレーからの失点を許して前半は1対1で終わりました。

後半も全く互角の戦い。個人技に勝るマリノスユースの選手に対して岐阜ユースの選手は果敢にチャレンジし、高いポジションからボールを奪取していきます。そして後半16分には岐阜ユースは交代で入ったFWの選手が直後のプレーでゴール! 再びリードする展開に観客は狂喜乱舞。私もI社長とハイタッチさせて頂きました(笑)。

「ひょっとしたら勝てるか?」との期待が高まりましたが、そこは日々高いレベルで戦っているマリノスユース。残り15分に岐阜ユースのミスを見逃さず同点、そして逆転に成功してきたところで試合は終了。結果は2対3の惜敗。残念ながらジャイキリを達成する事は出来ませんでした。でも選手達の成長には本当にビックリしました。格上の相手に対して臆する事無く精一杯戦い、今一步の所で勝ち点を逃しましたが、試合終了後には岐阜の若き戦士達に対して観客席から大きな拍手が送られました。予選リーグの残りは2試合。今度は「結果」を期待してますよ!(シュナ)

【Jユースカップ】FC岐阜ユースU-18 試合予定
10月30日(日)

13:00 vs アルビレックス新潟ユース

会場:新潟聖籠スポーツセンター アルビレッジ

11月 6日(日)

13:30 vs 清水エスパルスユース

会場:アウトソーシングスタジアム日本平

ALADDIN

何も無い店だけど...

心の花が咲く...

何も無い店だけど...

心癒される...

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)